

校 訓：人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう

学校教育目標：自ら学び、心豊かにたくましく生きる七塚っ子の育成



薫 陶

学校だより くんとう

特別号 令和7年1月28日

七塚小学校長 稲垣 優子



七塚小 HP QR コード

令和6年度後期学校評価結果のお知らせ

厳寒の候、保護者の皆様には本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今回の特別号では、2学期末に実施した保護者アンケートの結果をお知らせします。2月には後期学校評価アンケート結果を資料として学校評議委員会を開催し、評議委員の方々からご意見をいただく予定です。これらの結果やご意見を合わせ、3学期や来年度の学校活動の改善に生かしてまいります。保護者の皆様には、引き続きご協力いただきますよう宜しくお願いいたします。アンケート回答等のご協力、ありがとうございました。

(数字は%：小数第1位の概数で表しているの、合計100%にはならない項目があります。)

1 主体的に学び合う子の育成		A	B	A+B	C	D	R6 前期 A+B
教職員①	帯タイムや補充学習、合格テストを通して、基礎学力を身につけさせるための指導を個に応じて行っている。	72.2	27.8	100	0	0	100
	学期末テスト(国語は裏のみ・算数は裏表)の各学級平均点が全国平均を上回った割合	全国の平均点と比較して(全校12学級) (後期)国語 5/12学級 算数 6/12学級					
児童⑧	授業で、聞き方名人・話し方名人・反応名人ができています。	30.9	58.7	89.6	7.6	2.8	90.2
教職員②	学級の児童が聞き方名人・話し方名人・反応名人になるように十分指導している。	50	50	100	0	0	100
児童⑨	授業では、「学びの木」を使って自分で学び方を選んでいく。	71.2	20.8	92	6.6	1.4	95.8
教職員③	学校研究の重点「児童が主体的に自分に合った学習方法等の選択」をするために、日頃から意識して授業に取り組んでいる。	55.6	44.4	100	0	0	100
教職員④	児童に用語やキーワードを使って書ききらせたり、線丸したりする指導をしている。	44.4	55.6	100	0	0	100
	各学級における検証問題(国語・算数)を条件に沿って解答している児童の割合。	全ての条件を満たして正答している児童が 国語 44% 算数 33% 平均 38%					

＜□2学期の取組の成果と課題 ◎今後に向けて＞

- 教員は基礎学力の定着を意識して帯タイムや補充学習、合格テストに取り組んでいます。
- 全国平均より大きく下回る学級が複数ありました。学期末テスト実施に向けた取組(復習にける期間、定着度の正確な把握による内容を絞った類似問題の抜粋、個の理解度に応じた支援)について教師間で差があったことが要因と考えられます。
- ◎学年会を活用し、基礎基本の定着のために日々行っている具体的な取組を教員間で共有します。また、テストの直しを確実にし、積み残しが出ないようにします。
- 児童の肯定的評価は前期より1%下がりました。自分を客観的に捉えられる児童が増えたことで、否定的な回答をする児童が増えたのかもしれない。
- ◎3学期も継続して研究の重点について積極的に取り組むことで、児童一人一人が目指す姿を明確にし、それに合わせて表現する時間を充実させます。友達に話したり、ノートや黒板に書いたり、タブレット型端末型端末を活用したりなど、学習や学年など児童の実態に合った表現の仕方を取り入れられるよう、授業構想シートを活用して、学年間で教材研究をしていく機会をつくります。

□検証問題では、低学年は問題の難易度が上がり、正答率が前期よりも下がりました。問題の形式に慣れていなかったことが要因であると考えられます。一方高学年は、前期より正答率の上昇が見られました。類似問題を事前に解く機会を設けたことで問題に慣れることができたと考えられます。

◎問題を解くために必要な箇所に線丸が引けているかどうかを見取る指導について、2学期の検証問題の採点分析結果について提案する際に全体で確認し、取り組んでいくようにします。また、問題の形式に慣れることができるように、事前に類似問題を解く場を設けます。

2 自ら考え 健康・安全な生活を送ろうとする児童の育成		A	B	A+B	C	D	R6 前期 A+B
児童⑩	自分で決めた就寝・起床時間を守っている。	41.7	46.5	88.2	10.1	1.7	94.1
保護者⑧	子供の起床時間・就寝時間が守れるように努めている。	47.2	47.6	94.8	4.9	0 (分らない0.3)	95.1

□「よくあてはまる」と回答した教員・児童・保護者が、ぐっと減っています。特に低学年児童のできていない割合が増えたことも気になります。規則正しい生活がよいことは理解していますが、実際の生活に取り入れられていません。

◎すすく集会で児童の保健委員会と連携して、規則正しい生活の大切さを繰り返し児童保護者に啓発します。学んだことをその後のチェックカードの取り組みに生かすよう各担任から声かけをしてもらい実行します。継続して生活リズムが整わない児童の原因を探り、規則正しい生活が送れるよう改善策を自分で考えられるよう声かけをします。

3 自他の違いを認め合い お互いを尊重し合う子の育成		A	B	A+B	C	D	R6 前期 A+B
児童⑪	いつでも、どこでも、だれにでも すずんであいさつをしている。	58	36.5	(A)58	4.9	0.7	61
保護者⑨	子どもに、時と場に応じたあいさつを指導している。	45.1	51.7	96.8	2.4	0.7	94.1
児童⑦	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	97.2	1.4	98.6	1.4	0	98.3
保護者⑥	学校は、いじめの未然防止や早期発見のための取組を伝えている。	27.4	60.8	88.2	7.6 (分らない3.8)	0.3	86.4
教職員⑥	学校は、組織的にいじめ・不登校の未然防止と適切な対応をしている。	80	20	100	0	0	100
教職員⑦	配慮が必要な児童の様子について、情報を記録・共有し、活用を図っている。	80	20	100	0	0	100
教職員⑧	登校に渋りを感じている児童や教室になかなか入れない児童に対して、ケース会議や保護者面談、校内特別支援会議などを活性化し、組織的な対応を行っている。	90	10	100	0	0	100

□あいさつに対して、保護者の評価は高いが、肯定的に評価した児童は58%にとどまっています。児童自身があいさつできたと感じられる取組や、あいさつしていると実感できる評価を仕掛けていく必要があります。

□いじめは絶対に許されないものであるという意識は前期同様に高い状態にありますが、一部児童に意識の低下がみられます。

◎人間関係に不安を感じている児童の心が安定するように、校内OJTや職員研修を実施し、傾聴によるコミュニケーションの大切さや児童の思いに沿った相談や面談を行い、児童と教職員との肯定的な関係づくりを強化します。

◎ソーシャルスキルトレーニングの結果や感想、メディアでのトラブル防止指導、いじめの捉え方などについて、放送で全校に周知したり、生徒指導だよりやHPなどで発信したりする回数を増やします。

□ケース会議を重ねたり、担任とSSR支援員との連携がスムーズに行われるようにしたりすることで、児童の実態に合わせた対応にあたることができました。

◎月1回のほっとタイム（不登校児童理解）での情報共有だけでなく、不登校未然防止のための対策を全職員で意識して行っていきます。そのために授業や学校生活でのどんな取組が不登校未然防止につながるのかを共通理解します。

<自由記述より>（個別に対応させていただいたものもあります。一部ご紹介いたします。）

今回も温かいコメントをたくさん頂き、ありがとうございます。これからも職員一丸となって頑張ります。

- ・残暑が厳しい2学期でしたが、体操服登校などの対策をして頂けたのがありがたかったです。学校から遠い家までの帰宅が心配だったので、少しでも涼しくすごせるだけでもありがたいです。運動、マラソン、バス遠足など行事ごとが多い中、安全に見守って指導して頂きありがとうございます。
- ・毎日喜んで学校に通っています。授業が楽しいようで、帰ってくると学んだことをたくさん教えてくれます。参観も、とても充実していて見ていて面白かったです。5限目まで見させて頂き、子供たちが集中できていて偉い！と思うと同時に、小学校の先生方の忙しさ、凄さがよく分かりました。また、運動会やマラソンなど、行事を経験するごとに遅しく成長している様子が分かり、とても嬉しいです。
- ・毎月行われる詞の暗唱で合格シールをもらえることが嬉しいようです。覚えるのが前より早くなってきて驚いています。
- ・学校の様子をホームページで毎日更新して頂き、とてもありがたいです。
- ・先日娘が、男の子同士の下校の仕方に思うことがあったようで『それ仲間はすれやよ！（略）』と声をかけたことがあったようです。とても小さなことですが、声をかける勇気をもてたのは、学校からのいじめアンケートを通して、いじめをみたらどうするか話し合っていたのも良かったのかなと感じました。これから学年が上がるにつれて自身がいじめの加害者にならないように、しっかりコミュニケーションもとっていきたいと思っています。
- ・学年が上がるにつれ、友達関係で難しいことも増えてきています。親が間に入ることも必要ですが、それ以前に先生方が迅速に対応してくださり、トラブルの芽を摘んでもらえているのだなと感じることがあります。勉強だけでなく生活の細やかなところまで指導していただき感謝しています。
- ・社会見学の体験（町のお店見学や、工場見学）がとっても子供心に響いたみたいで、家に帰ってきてからも色々と教えてくれました。小学生でも社会に携わって体験や経験がいろいろとさせてもらえるのがありがたいです。
- ・家で宿題以外の学習をなかなか親が思うようにできないことと、授業の理解の遅れが気になっていたもので、ぐんぐん教室を提案してもらえて助かりました。ステップアップ教室も定期的にしてくださり、ありがとうございます。

課題

☆学校・地域での安全対策やきまりについて

- ・地震、津波、豪雨など災害が身近になってきているなと感じます。日頃から避難訓練等行ったださりありがとうございます。学校のホームページで危機管理マニュアルも公開してくださっていますが、津波警報発令時は三階に避難、大津波警報発令時は木津老人会館というのはこの地形的に大丈夫なのかなどと少し不安も感じました。またひとつずつ見直しをしていただけたら安心だなと思います。

→本校の海拔は15mです。今年度は、大津波警報が発令された場合の避難訓練で、第2避難場所（木津老人会館：海拔約30m）へ避難しました。さらに避難しなくてはいけない場合は、第3避難場所（木津公民館：海拔約33m、国道249号線：海拔約34m）となっています。安全に避難できるよう、状況を見て避難場所を検討し、今後も訓練を重ねていきます。

- ・学校の上履きですが、今指定の青い上履きは昔ながらで汚れも落ちにくく、1度洗えば名前も消えて使い勝手が悪いと思います。他のものに変えてほしいです。

→青の教育シューズを推奨していますが、今後については河北台中学校区で相談し、検討いたしますので、ご了承ください。

☆1人1台端末の効果的活用について

- ・クロムブックで漢字を書く事が苦手で、どうしてもイライラしてしまうみたいです。何かいい方法があれば保護者向けにも教えて頂きたいなと思いました。

→タブレット型端末の操作については個人差がありますので、学校でも操作に慣れるよう支援していきます。また、今後も効果的な活用ができるよう、教職員間で共通理解を図り、取り組んでいきます。

☆温かい人間関係づくりについて

- ・以前、あるお友達が中指立てて死ねって言うてるよ、と教えてもらいました。1年生でその言葉はあんまり言って欲しくないなあと思いました。(先生も指導してるとは聞いているのですが…)

→学校生活の様々な場面の中で、児童同士の温かい人間関係づくりに取り組んでいます。言葉遣いについても気持ちのよい言葉遣いができるよう学校全体で再度指導していきます。ご家庭でも温かい言葉遣いができるよう、お子様に声かけをよろしくお願いいたします。

☆教育活動等について

- ・いつもありがとうございます。毎月ある「親子de読書」ですが、親も子も飽きています。いい活動だとは思いますが、本を読むだけならいいのですが、毎回本の感想ではなく、読書をした感想を求められているので書くのが億劫です。何かいい方法があれば教えてください。

→いつも熱心に取り組んでいただきありがとうございます。毎月の取組では読書の感想だけではなく、本の感想を児童が書く方法でも結構です。一人で読んだ感想と家族と一緒に読んだ感想はきっと違ったものになると思います。家族でのコミュニケーションの一助となれば幸いです。

- ・今年の高学年の団競(タイヤ引き)が危険だと感じました。綱引きに戻して欲しいです。

→運動会の種目については、児童の安全面も考慮して検討いたします。

- ・給食のおかずの皿が仕切られていないのがとても気になりました。混ざって食べ辛いのですか？改善して欲しいです。

→給食の食器については、かほく市内共通で、全部食洗器で高熱処理をしているため、特別な材料を用いたシンプルなものを使用していると聞いています。そして、1つ1つが大変高額なため学校裁量では改善が難しいと考えます。要望はお伝えしますが、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

貴重なご意見、ありがとうございました。今後の学校運営の参考にさせていただきます。